

平成 元年 10 月 15 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

## 新規遺跡の発見について（その方法と時代判断）

「ここに縄文時代の遺跡がある事がなぜわかるのか」とか、「その時代判断はどのようにしてわかるのか。」という質問を受けることがあります。

どう考えてみても、土の中の事がわかるということは不思議なことです。でも、実は、それがわかるのは、市民の皆さんの力によって解明されるのです。

今回は、このような遺跡の発見について書いてみたいと思います。

多摩川は、上流から流れ出た土砂を運びだし、多くの台地を形成してきました。私達がそこに住む前、主に縄文時代の人々の生活以降、数千年間にわたっての生活の跡が土に埋まって今に至っています。これらの生活の場を一つの遺跡としてとられ、詳細な調査が行われて、新しい青梅の年表が拓げられていくわけです。

それでは、その前段階である遺跡の発見はどのようにして為されるのでしょうか。

遺跡確認の最大のポイントは遺物です。宅地開発等のためにたまたま掘った所から出て来たりすることもあります。一般的には、畑を耕した時、邪魔ものになる石やゴミ、それ等を一か所に集めたり、捨てたりするものの中に遺物があるのです。

このように、市民の皆さんのおかげで出てきた遺物は、畑をひたすら歩いて集める表面採集によって集められ、時代を確認することとなります。

遺物は、土器類に限らず、作為的に割られたり磨かれたりした石、1 cm にも至らない石族や黒曜石のクズ等も対象にします。中でも、土器があればしめたもの。紋様がどんなか、焼きぐあい、厚さ、粘土の質等色々な観点から考えていきます。紋様においては、各時代ごとに施しが大きく異なるため、その特徴をつかむことによりある程度の時代判断がつかえます。また、粘土の質では、時代によって粘土の中に繊維を混ぜて焼いたものやウンモをまぜたものなどもあり、器面を詳細に観察することによって判断ができます。焼き方や厚さについては、時代と共に技術の進歩が考えられ、特殊な場合を除いて時代の新旧が判断されたり、時代特有の焼き物などの出現による時代判断も可能になります。このように、いろいろな面を考え合わせた結果、時代がわかってきます。

また、表面採集では土地全体の土の色の変化や散布地域の違いなども後に発掘調査が行われるとすれば、参考になる為、ときには重要なこととなっています。

市内の遺跡のほとんどは広い台地で日当たりも良く、水の条件（川、沢、湧水）自然の災害にも耐えられるような場所を選んでいるようです。こんな場所を地図上で選び、新しい遺跡の発見を心掛けてもおもしろいと思います。

(文責 鈴木晴也)